



KORIN 展

— 国宝「燕子花図」とメトロポリタン美術館所蔵「八橋図」 —

Irises and Eight Bridges

Masterpieces by Kōrin from

the Nezu Museum and the Metropolitan Museum of Art

2012年4月21日(土)～5月20日(日)

[休館日] 月曜日 ただし4月30日(月・祝)開館

時間延長: 4月28日(土)～5月20日(日) 午後6時まで開館

根津美術館では、2012年春、メトロポリタン美術館(米国・ニューヨーク市)所蔵の「八橋図屏風」と当館が誇る国宝「燕子花図屏風」を一堂にご覧いただく特別展「KORIN 展 — 国宝「燕子花図」とメトロポリタン美術館所蔵「八橋図」 —」を開催する運びとなりました。

国宝「燕子花図」は、18世紀初頭の京都において、尾形光琳(1658～1716)が生んだ日本絵画史上の名品です。伊勢物語の「八橋」の場面を発想源として、六曲一双の金地の屏風に、群青と緑青という限定された彩色によって、群生する燕子花のみが鮮烈に、堂々と描き出されています。

それから10数年後、江戸滞在を経験したのち、光琳は同じテーマに基づく屏風絵の制作に挑みました。それが、メトロポリタン美術館が所蔵する「八橋図」です。「燕子花図」とは異なり、八橋を暗示する橋のモチーフとともに燕子花を描きながら、構成的かつ幻想的な画面を作り上げています。

本展は、光琳が時を隔てて描いた「燕子花図」と「八橋図」を、およそ100年ぶりに同時に展示する機会となります。それによって光琳の画風展開をうかがうとともに、あわせて「燕子花図屏風」より前の光琳の画業、抱一の『光琳百図』をはじめとする江戸時代の出版物に示された光琳画の様相を、厳選した作品によってご覧いただけます。また庭園を彩るカキツバタの群生がピークを迎えるゴールデンウィーク初日より、展覧会最終日まで、開館時間を1時間延長して開催いたします。

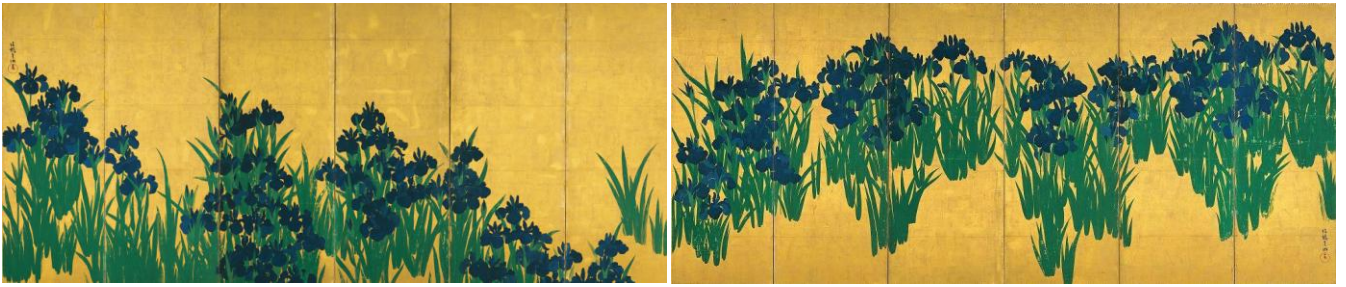
なお本展は、昨年3月11日に発生した東日本大震災後の諸状況を鑑みて開催をみあわせ、会期をあらためて開催するものです。

【開催概要】

【展覧会名】	KORIN 展 — 国宝「燕子花図」とメトロポリタン美術館所蔵「八橋図」 —
【主催】	根津美術館
【後援】	駐日アメリカ大使館
【開催期間】	2012年4月21日(土)～5月20日(日)
【開館時間】	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
【時間延長】	4月28日(土)～5月20日(日) 午後6時まで [入館は午後5時30分まで]
【休館日】	毎週月曜日 ただし4月30日(月・祝)開館
【入館料金】	一般1200円 学生1000円 * 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き * 小・中学生以下は無料
【前売券】	一般1100円 学生900円 * 2012年2月25日(土)～4月8日(日)特別展「虎屋のお雛様」開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
【アクセス】	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分 B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
【住所】	〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
【お問合せ】	TEL 03-3400-2536 (代表) http://www.nezu-muse.or.jp

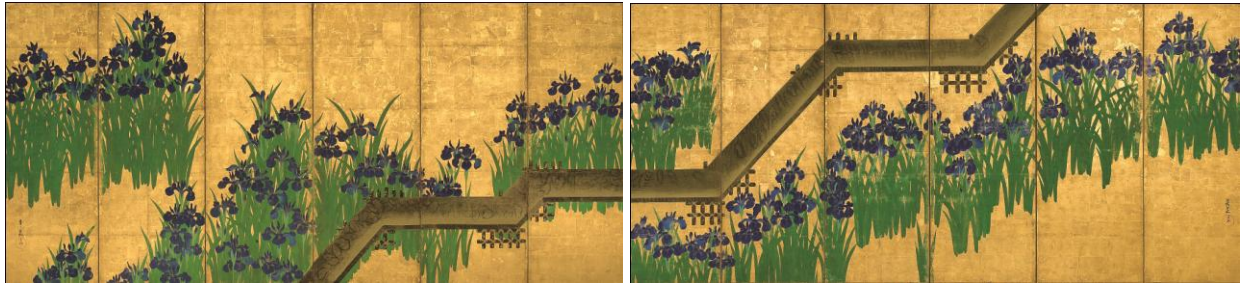
特別展 展示室1・2

(会期中、一部の作品について展示替えを行います)



国宝 燕子花図屏風 六曲一双 尾形光琳筆 江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

「燕子花図」は制作後ながく京都の地に秘蔵され、その存在が知られるようになったのは明治時代に入ってからである。その後、大正時代のはじめに初代根津嘉一郎の所蔵となり、昭和6年(1931)に旧国宝、同26年に現行の国宝に指定された。



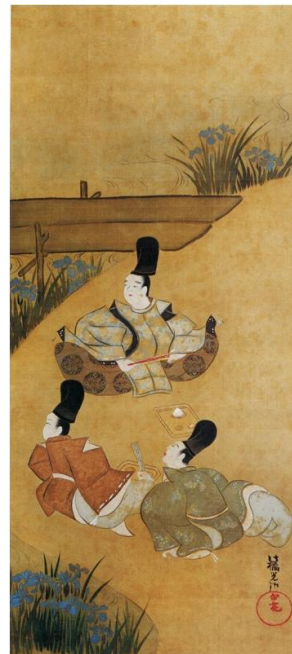
八橋図屏風 六曲一双 尾形光琳筆 江戸時代 18世紀 メトロポリタン美術館蔵 Image © The Metropolitan Museum of Art

「八橋図」は、江戸後期の文政9年(1826)、光琳頭彰の立役者・酒井抱一(1761~1829)が編んだ『光琳百図』後編に、ほぼ同じ図様が掲載される。こうした出版物によって光琳の作品イメージは海外にもおよび、やがて「八橋図」は海を渡り、1953年米国・メトロポリタン美術館に収蔵され、現在に至る。



十二月歌意図屏風 六曲一双 尾形光琳筆 江戸時代 17世紀 個人蔵

現存する光琳最初の作品。十二月の花や木を題材とする詩歌にもとづく絵の上方には、12人の公家が和歌を書しており、光琳の画業が京都の堂上サロンではじまったことを物語る。穏やかな画風は当時の公家の好みにあわせたもの。ここを出発点に、やがて光琳は独自の装飾的な画風を築いてゆく。



光琳は、伊勢物語「八橋」の場面を好んで描いた。本作品は、燕子花が咲き、板橋がかかる水辺で、主人公と供人たちが都の方角を眺める様子を、物語に忠実に描いている。人物の姿には、宗達の影響もうかがわれる。

伊勢物語八橋図 一幅 尾形光琳筆 江戸時代 18世紀 東京国立博物館蔵



「八橋図」と同様、酒井抱一が江戸時代末期に実際に目にした作品。また、謡曲「白楽天」を題材とする点で、謡曲「杜若」にインスピレーションを得たとも指摘される「燕子花図」と関係が深い。

白楽天図屏風 六曲一隻 尾形光琳筆 江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

<関連情報>

■特別講演会

<尾形光琳の人と作品 -燕子花図と八橋図をめぐって->

- 日時 2012年4月21日(土) 午後2時から午後3時30分
講演 村瀬実恵子氏(コロンビア大学名誉教授)
定員 140名

■シンポジウム

<光琳画の展開と受容>(仮題)

- 日時 2012年4月29日(日) 午後1時から午後4時30分
講演 パネリスト: 玉蟲敏子氏(武蔵野美術大学教授)
仲町啓子氏(実践女子大学教授)
中部義隆氏(大和文華館学芸課長)
野口剛(根津美術館学芸主任)
司会: 河合正朝氏(慶応義塾大学名誉教授)
定員 100名

お申込方法

往復はがきに参加を希望される「特別講演会」もしくは「シンポジウム」と、住所、氏名(返信面にも)、電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館『KORIN展』係にお申込みください。「特別講演会」は2012年4月7日(土)、「シンポジウム」は4月14日(土)、締切(当日消印有効)。参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

*会場はいずれも根津美術館 講堂

■スライド・レクチャー

展示内容について、学芸員がスライドをもちいてお話しします。

- 《モーニング・レクチャー》 4月24日(火)、5月1日(火) 午前10時30分~11時
《イブニング・レクチャー》 5月8日(火)、5月15日(火) 午後5時~5時30分

ご参加方法

事前申込みは不要です。各回とも開始の15分前より講堂入口で受け付けます。定員(140名)になりしだい受付終了となります。

*聴講、レクチャーはいずれも無料ですが入館料をお支払いください

<時間延長> 2012年4月28日(土)~5月20日(日) 午前10時~午後6時(入館は午後5時半まで)

ゴールデンウィーク初日より、展覧会最終日まで開館時間を延長し、午後6時まで開館します。また4月末から5月初旬にかけてカキツバタの群生が庭園を青色に彩ります。

茶室「弘仁亭」前のカキツバタ



<ミュージアムショップ>



燕子花図をイメージした KORIN 展オリジナルグッズを販売します。またメトロポリタン美術館「八橋図」をモチーフにしたグッズも販売予定です。

●染付燕子花そば猪口(手描き) 4,000円

光琳が群青と緑青で表現した燕子花を、純白の素地に潤いのある藍彩で描いたそば猪口です。お料理を盛り付けるほか、ティーカップなど暮らしの中でお好みにあわせてお楽しみいただけます。

奥から左まわり「そば猪口」4,000円、「書鎮」(那智黒石に金蒔絵)9,500円、「手描きストラップ」1,500円

<NEZUCAFÉ>



緑豊かな庭園が眼下に広がる、景観のよい NEZUCAFÉ では、KORIN 展開催時期に合わせ、限定メニューを販売予定です。

定番のミートパイや、有機栽培の豆を焙煎した美術館オリジナルのコーヒー、さらには抹茶ラテ(ホットとアイス)も、人気メニューです。

[同時開催]

■ テーマ展示

展示室 5 「きらめく螺鈿」



螺鈿楼閣人物文箱 一合 中国・元時代 13-14 世紀 根津美術館蔵

真珠色に輝く夜光貝や鮑貝の薄い板を漆で貼付けて飾る技法を螺鈿といいます。全体を隈なく飾った卓や蒔絵に螺鈿をあしらった文箱など工芸的に優れた作品を中心に展示いたします。

展示室 6 「初夏の茶」



古染付手桶水指 中国・明時代 17 世紀 根津美術館蔵

爽やかな新緑の季節になると、前年の冬から使用した炉をふさぎ、風炉に釜をかけて気分を一新します。染付水指や籠花生など、初夏を楽しむ茶道具約 20 点を取り合せます。

<次回展>

ちゆうせいびと はなのえ ちゃかい 中世人の花会と茶会

2012 年 6 月 2 日 (土) - 7 月 16 日 (月・祝)

中世の人々にとって、社交の場であり、収集品を披露する楽しみであった花の会や茶の湯の会。本展では、当館所蔵の唐物道具を中心に、当時の人々が楽しんだ世界をご覧ください。

さはりつりふねはなはいれ ひらた
砂張釣舟花入 罌 東南アジア 15~16 世紀 根津美術館蔵



— 一手のなかに古美術の愉しさを —

根津美術館のアプリ 好評配信中！

根津美術館が所蔵する日本・東洋の古美術作品や、ギャラリー、庭園など、その魅力を国内外に広く伝えるため、スマートフォン、タブレット端末、携帯電話に対応した根津美術館のアプリを日本語・英語同時にスタートしました。日本美術のビギナーから愛好家まで、幅広い層の方々へ、古美術の愉しさを発信します。いずれも無料。

「App Store」・「Android マーケット」から **根津美術館** を **検索**

または携帯より [http://www.nezu-muse-app.jp] にアクセス



<リリース・広報のお問い合わせ>

担当：鎌倉/羽田/白原 しらはら

TEL03-3400-2538(学芸・広報/直) / FAX 03-3400-2436

MAIL: press@nezu-muse.or.jp